

光市医師会報

平成17年5月号

No.373



光市医師会

<http://www.yamaguchi.med.or.jp/users/hikarishi/isikaihp/hikari.htm>

巻頭言

カラス

河内山医院

河内山敬二

「最近、カラスが多いね。」始まりは昨年の秋耳にした、患者さんの言葉でした。診察室の北側の窓から見える電線に、カラスが7、8羽とまっていた。その時は確かに少し多いかなという程度で、大して気にしていませんでした。私は時々夜、自宅の屋上で作業を行うのですが、その日は新しく手に入れた機材を手にも、嬉々として屋上へ行って行きました。その時、頭上を何かがかすめました。そして間もなく、逆方向から再び私の上を歩いていきました。カラスです。その後しばらくして、今度は5、6羽位が南側から飛んで来て、丁度私の前あたりから上昇し、北側にある例の電線にとまりました。しばらくして電線から下降し、私の頭上をかすめて南側に飛んで行きました。はっきり言って、怖いものです。カラスは羽を広げると、意外に大きく見え、暗闇の中でのバサバサという羽音は、臆病な男を震えあがらせるのに十分な不気味さがあります。また、頭上から襲われるという感覚は、言いようのない不安感を覚え、またある種の無力感さえ感じます。もしこれがカラスではなく、戦闘機であったなら？先の大戦、あるいはイラク戦争等で、空からの攻撃にさらされた人々のことを思うと、なんともやりきれない気持ちになります。

翌日、知り合いのM君にその事を話したら「先生、それはもうエアガンで殺すしかないでしょう。」と言われました。父にその事を相談すると「カラスは非常に利口で執念深く、そんな事をすると必ず復讐にやってくる。」と忠告され、恐ろしくなってしまう、計画は中止としました。

その後は、鳥撃退グッズを屋上にしかけたり、カラスに頭上を攻撃されても大丈夫なように、バイク用のヘルメットを購入したり、(自宅の屋上ながら、これをかぶって夜中ウロウロしていると、さすがに怪しく、又情けなくなります。)作業開始時間をカラスの活動の少なくなる時間にあわせて遅らせたりと、工夫をしました。が、そんな事が長続きするわけもなく、冬の到来と共に寒い中カラスに気をつかいながら、夜中に作業をするのが次第におっくうになり、自然と屋上からは足が遠のいてしまいました。

しばらく、カラスの事などは忘れていましたが、春になり日に日に暖かくなってくると、またまたカラスの事が気になりだしました。どうやら今のところ、そんなには多くはなさそうです。母が言うには、去年は台風が沢山来たために、山にクマやカラスの食べ物なくなり、人里に降りて来たのだそうです。去年の台風18号で悲惨な停電、断水を経験するまでは、どちらかという台風が嫌いな方ではなかったのですが、(台風が来る前の周囲の緊張感と慌ただしさが好きなのかもしれません。)今年は台風が来ないように、今から祈っているしだいです。普段は格別意識させられる事のないような人(動物)でも、いざ個人的に関わってみると、結構うっとうしい人(動物)っているものです。できれば今年はそんな輩には関わりをもちたくないものです。

先月の医師会長

4月 7日(木)	介護認定審査会 (アイパーク)
4月 9日(土)	日本内科学会総会 (大阪)
	日本臨床内科学会総会 (大阪)
4月 12日(火)	理事会 (事務局)
4月 18日(月)	介護認定審査会 (アイパーク)
4月 21日(木)	AED研修会 (光消防本部)
	山口県臨床内科医会 (山口県医師会)
4月 22日(金)	周南地区臨床カンファレンス (周南記念病院)
4月 26日(火)	症例検討会 (大和病院)
4月 28日(木)	山口県医師会代議員会 (山口県医師会)



4月の医師会活動

- I. 12(火) 定例理事会
II. 26(火) 第4回合同症例検討会

(医師会事務所)
(大和総合病院 6F 小会議室)

I. 定例理事会

日時:平成17年4月 12日(火)午後7時30分～

場所:光市医師会事務局

議題:

I. 報告事項

1. 郡市生涯教育担当理事協議会(3/10) (山本先生)
2. 第2回周南地域医療連携運営委員会(3/18) (河村会長)
第10回地域医療支援病院審議委員会
3. 平成16年度学校保健会理事会(3/24) (河村会長)
4. 周南地域リハビリテーション体制整備推進事業報告 (丸岩理事)

II. 協議・承認事項

1. 大和保育園園医の件 (河村会長)
2. 平成17年4～5月暫定予算 (松村副会長)

資料① 1. 平成16年度:郡市医師会生涯教育担当理事協議会

日時:平成17年3月10日(木)

場所:山口県総合保険会館

1. 日本医師会の平成15年度の生涯教育の申告集計結果報告:
全国平均で平成6年の39%がボトムでH15年度は1.8%増しの71.4%の申告率であった。
2. H17年度山口県医師会生涯教育事業計画
 - ①:生涯教育セミナー:
 - ②山口県医学会総会:第88回が宇部市で6月開催予定:
 - ③第一製薬のスポンサーで年に4回くらいの予定で小規模の『脳、心血管講座』セミナーを開催できる。
その第一回が岩国で3月26日開催予定:
 - ④新医師教育制度の発足に伴い、プライマリーケアの教育者の育成ために「指導医のための教育ワークショップ」が行われた。
 - ⑤のように県医師会のホームページに日医生涯教育制度の「認定証」の取得者の氏名が公開される予定である。
光市医師会がサンプルで挙げられてます。(公開されると取得していない医師は不利益?)
 - ⑥乳ガン検診のためのマンモグラフィーの講習会を山口県医師会でも独自開催するように要請があった。
岡山、鳥取県の60%だいに比べ山口県は5%台と少ない。
 - ⑦山口県医師会主催の生涯教育セミナーへの参加者が少ない(200人前後)今後活性化してゆくためにはどうすれば良いか?テーマの選び方、明日の診療に役立つテーマ、コンピュータを活用するなどの活発な討論が行われた。

資料② 2. 第2回周南地域医療連携運営委員会・第10回地域医療支援病院審議委員会

日時:平成17年3月18日(金)午後7時～

場所:周南市 敦煌

〈周南地域医療連携〉

1. 平均在院日数
2. 病院間交流会
3. 勤務医・開業医との懇談会

〈地域医療支援病院〉

1. 診療録管理体制の取得
2. 医師会病院だより
3. 年報
4. 病院機能評価受審 3月9. 10. 11日

資料③ 3. 平成16年度 光市学校保健会理事会

日時:平成17年3月24日(木)午後2時～

場所:光市教育委員会 会議室

1. 平成16年度事業報告及び決算報告
2. 平成17年度事業計画案及び予算案
(大和地区分 増額)

3. 平成17年度総会

日時:平成17年6月30日(木) 午後1時から 場所:あいぱーく光

資料④ 4. 周南地域リハビリテーション体制整備推進事業報告

- 1. 周南圏域における地域リハビリテーション構想の考え方
- 2. 年度別事業概要
- 3. 周南圏域に於ける課題
～平成14年度作成「連携指針」抜粋～
- 4. 取り組むべき対策
～平成14年度作成「連携指針」抜粋～
- 5. 事業実施状況
- 6. 取り組みの成果
- 7. 取り組みの中での課題・方向性
- 8. 今後の取り組み

II. 第4回合同症例検討会

日時:平成17年4月26日(火)19:00～

場所:大和総合病院 6F小会議室

司会進行:大和総合病院放射線科 田中睦雄

- 1.成人鼠径ヘルニアの新しい術式(クーゲル法)
大和総合病院外科 工藤淳一
- 2.高齢男性に発症した閉塞性黄疸の一例
光総合病院消化器内科 白石慶
- 3.慢性関節リウマチ患者に発症した多房性膿胸の一例
光総合病院循環器内科 中村安真
- 4.鎖骨下動脈狭窄により上肢血圧左右差をきたした2症例
光総合病院外科 竹中博昭



1 成人鼠径ヘルニアの新しい術式(クーゲル法)

: 大和総合病院外科 工藤淳一

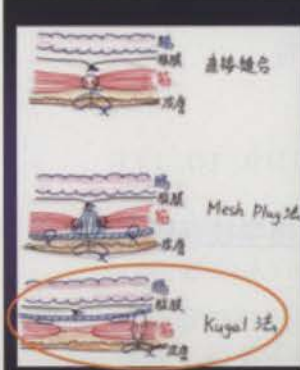


成人鼠径ヘルニアの新しい術式

～従来の術式とKugel法との比較～

光市立大和総合病院 外科
工藤 淳一

光市立大和総合病院



従来の方法

～1990年代
直接縫合
(Bassini法、MacVay法など)

1990年代後半～
Mesh plug法が主流
(onlay法 外側から補強)

最近になりinlay法(内側から補強)にかわりつつある

(当科でも昨年5月よりKugel法)

光市立大和総合病院

再発率

人工シートを使わない
10~30%

Mesh plug法
0~1%

Kugel法
0.6%

ほとんど差がない

光市立大和総合病院

Kugel法 inlay

Mesh plug法 onlay

光市立大和総合病院

Mesh plug

plug

Mesh patch

ポリプロピレン製

光市立大和総合病院

Kugel patch (8 cm x 12 cm)

PETポリマー形状記憶リング

エブロン

ポケット

穴

ポリプロピレンメッシュ2枚
(PETポリエチレンテレフタレート)

光市立大和総合病院

Mesh plug法

鼠径管 ヘルニアの通り道

光市立大和総合病院

Kugel法

光市立大和総合病院

Kugel法

光市立大和総合病院

皮膚切開の比較

従来の方法では
・鼠径管の直上で皮膚切開
・鼠径管を開いて、挿入

↓

術後手術部位が腫脹

Kugel法では
・皮膚切開は上方
・鼠径管は触らず肉より挿入

↓

鼠径部腫脹は軽度〜なし
創部は腫脹ほとんどなし

光市立大和総合病院

術後在院日数の比較(Kugel法 対 Mesh plug法)

術式	Kugel法	Mesh plug法	p値
症例数 (男:女)	13 (11:2)	15 (14:1)	
年齢	61 ± 20	63 ± 19	n.p.
術後在院日数	6.5 ± 3.0	9.1 ± 1.8	p=0.01

(H14.9月 - H16.11月)

光市立大和総合病院

まとめ

当科では新しい成人ヘルニアの手術術式として昨年5月よりKugel法を採用した。

従来のMesh plug法に比べ術後症状(創部腫脹、疼痛など)が軽減され、術後在院日数が有意に短縮された。

光市立大和総合病院

2 高齢男性に発症した閉塞性黄疸の一例

： 光総合病院消化器内科 白石慶・矢川智仁



〈症例〉80歳、男性

〈現病歴〉生来健康。1週間前より食欲低下、心窩部痛出現、また、4日前より褐色尿に気付き、光中央病院受診。血液検査で肝胆道系酵素の異常を認め、腹部超音波検査では肝内・総胆管拡張を伴っており、精査加療目的に3/9当科紹介となった。

〈現症〉170cm、69kg 心窩部に一致した軽度の圧痛を認める。

〈既往歴〉特記すべき事なし。 家族歴:妻:直腸癌

〈生活歴〉アルコール摂取なし。

〈血液・尿検査〉(異常値は太字・斜体)

T.P;7.1,Alb;3.9, **T.B;1.5,D.B;0.8**,ALP;**523**,LDH;340,AST;**123**,ALT;**169**, γ -GTP;**978**,S-AMY;101,
リパーゼ;91, **Glu;155**,CRP;0.3, **U-MY;40**,WBC;4400,**RBC;358**,Hb;**12.3**,Plt;17.0,**HbA1c;6.3**

HBsAg(-),HCVab(-)

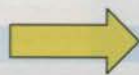
IgG;1703,IgA;204,IgM;66,**IgG4;157**

ANA;**X40**,LE細胞(-)

CEA;1.0,CA19-9;19.1,**エラスターゼI;91**

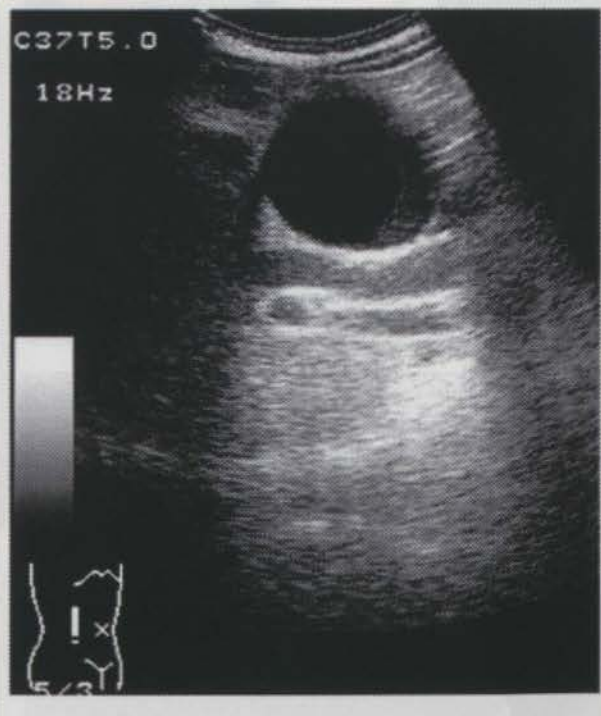
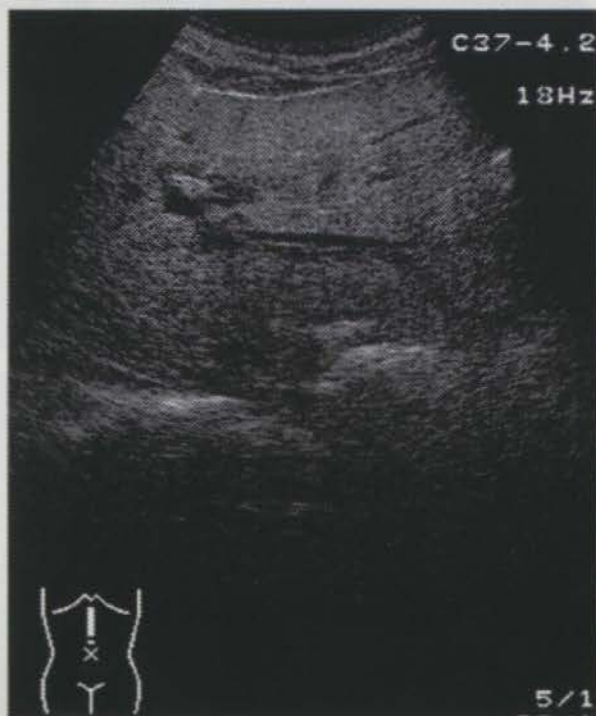
PFDtest;32.0%

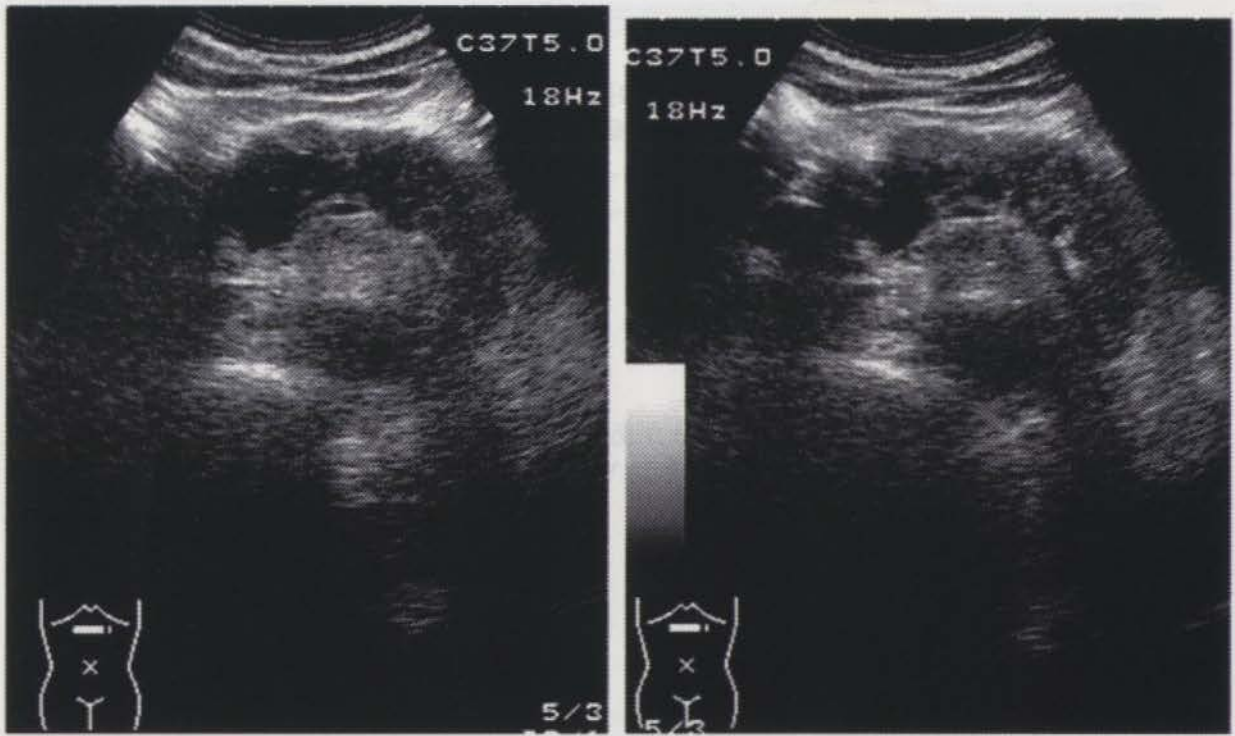
〈上部消化管内視鏡検査〉胃びらん(Group:1)を認めるのみ。十二指腸下行脚、 Vater乳頭は異常なし。



.....疾患名は？

入院時腹部超音波検査





超音波内視鏡
(EUS)

EUS 下穿刺吸引生検(FNA)





……自己免疫性膵炎！

概念:原因・発生機序不明 高齢男性(60代)に好発
 限局性の症例(膵癌との鑑別困難)、経過と共に病変範囲が広がっていく症例もあり。
 多彩な膵外病変を認める。甲状腺炎、唾液腺炎、閉塞性静脈炎、後腹膜腺維症、
 胃病変・乳頭部病変、間質性腎炎、間質性肺炎、リンパ節腫大、血小板減少など

→全身性の疾患か?

臨床的特徴:

- 1.びまん性の膵腫大
- 2.特徴的な膵管のびまん性の狭細像
- 3.胆管狭窄により閉塞性黄疸を示すことがある
- 4.腹痛などの膵炎としての自覚症状に乏しい
- 5.高IgG血症
- 6.抗核抗体などの自己抗体陽性
- 7.ステロイドが有効

症状:心窩部不快感、黄疸、糖尿病の悪化

血液検査所見 : 閉塞性黄疸のパターンを呈する。軽度の膵酵素の上昇。
 PFDテスト:低値。HbA1cの上昇。

画像所見 : ソーセージ様の膵腫大。造影CTでは早期相で造影効果不十分、
 後期相で造影される。膵辺縁に皮膜様低吸収域(capsule-like rim)あり。総胆管
 の狭窄(胆管周囲の炎症や細胞浸潤による)。

診断基準(日本膵臓学会2002):

- 1.膵画像検査の膵管像で特徴的な主膵管狭細像を膵全体の1/3以上の範囲で認め、さらに膵腫大を認める。
- 2.血液検査で高 γ グロブリン血症、高IgG血症、自己抗体(抗核抗体、リウマチ因子など)のいずれかを認める。IgG4の高値を特異的に認める。
- 3.病理組織学的所見として膵にリンパ球、形質細胞を主とする著明な細胞浸潤と線維化を認める。
 - 1.を含んで2項目以上満たす症例を自己免疫性膵炎と診断する。

IgG4が上昇する機序は不明。病態の活動性を反映している。
 (治療効果判定、再燃予測に用いられるかも)

- ・膵癌などの腫瘍性病変との鑑別が極めて重要。
- ・時に他の自己免疫性疾患と合併(シェーグレン症候群との合併例が多い)。
- ・本症を疑う症例に対してはできる限り組織学的検討を試みるべき。

治療 : 中には自然緩解例あり。ステロイド(プレドニゾン30~40mg)投与2~4週にて症状、
 血液検査・画像所見の改善を認めることが多い。
 1~2週毎に5mgずつ減量、維持量(2.5mg~10mg)とする。
 中止後再燃する例では5~10mgを維持量とする。

長期経過:

1年以上の経過観察例のうち、約1/4の症例に再燃を認めた。全例ステロイド治療症例。
 再燃例の約半数に膵石形成を認めた。
 →進行性の病態と考えるべき。
 (通常の慢性膵炎と同様に膵管の変化、膵石灰化が生じることあり)
 ステロイド治療により膵炎と共に糖尿病の改善する例もあるが逆に悪化例も当然ある。

3 慢性関節リウマチ患者に発症した多房性膿胸の一例

： 光総合病院循環器内科
中村安真 名尾朋子 濱田陽子



〈症例〉 61歳 女性

〈主訴〉 右側胸部痛

〈現病歴〉 慢性関節リウマチで当院整形外科、高血圧症で当院内科にて Follow up されていた。

入院10日前から急に(呼吸性に増悪する)右側胸部痛を自覚するようになった。発熱なく、呼吸器症状もなかった。痛みが改善しない為受診、胸部X線写真・胸部CTにて膿胸が疑われ入院となった。

リウマチは活動度は低いが関節痛強く、NSAIDsの内服常用に加えて坐剤も2~3回毎日使用。

プレドニンは2.5mg/day。

〈血液検査〉 WBC24700(left shift ++), RBC440万, Hb116, PLT27.6, TP75, Alb3.5, T-Bill2.1, ALP839
LDL404, (AST/ALT/γ GTP/BUN/Cre/Na/K/Cl, 正常) CRP33.5

〈胸写〉 右上葉、上中葉間に異常陰影

〈胸部CT〉

胸腔穿刺(背側より)

穿刺液性状:膿性(黄白色) TP5.7 LDH2387 WBC316万(Neutro 100%)

細菌・結核菌培養 Negative 細胞診 Negative

ドレナージはできず(隔壁の存在?他のlesionと交通なし)

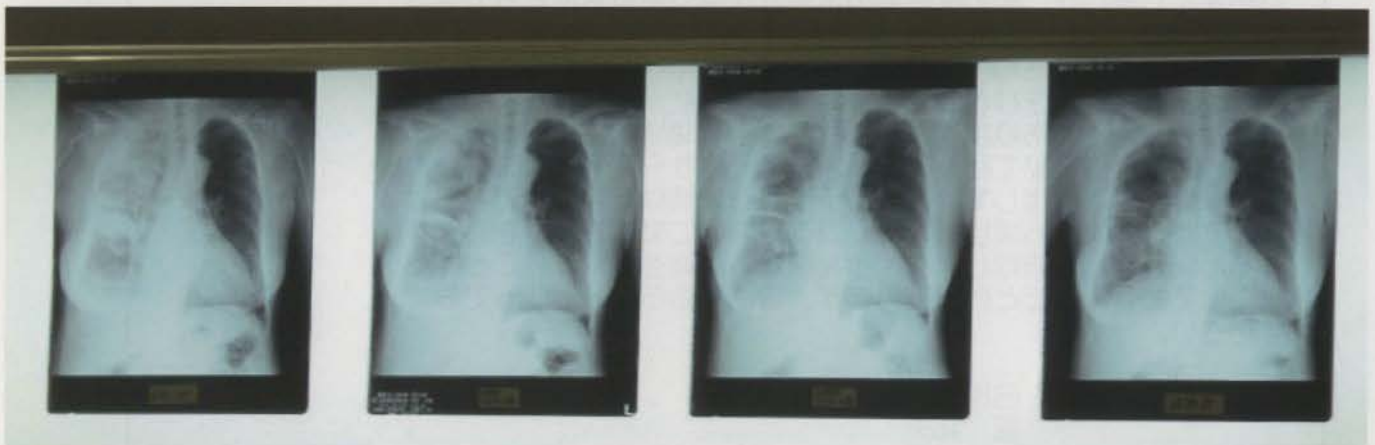
カルベニン投与を開始するが、CRPの低下はわずかで、陰影改善みられず。

胸腔穿刺(前胸部より)施行。部分的にドレナージ可、洗浄繰り返した。

これ以後CRPは速やかな低下を、また陰影改善も明らかとなる。

考察

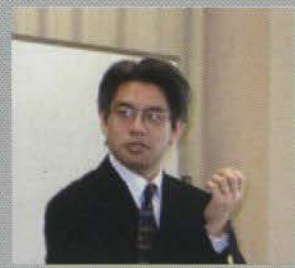
- ・NSAIDs多量服用—発熱がマスクされ感染症の発見が遅れる—初発から多房性膿胸—ドレナージが重要だが、それぞれには交通がないことが多い(場合によりフィブリン溶解薬を注入すること)。
- ・できるだけ単房性に近づけることが望ましい。
- ・膿胸—混合感染が多く、重症度も高いため、カルバペネムを使用した。幸い長期投与にても耐性や重大な副作用をきたさなかったが、可能な限り起因菌を同定するのが望ましい。
- ・外科的治療のタイミングを常に考慮しながら抗菌療法を。



4 鎖骨下動脈狭窄により上肢血圧左右差をきたした2症例

： 光総合病院外科

竹中博昭



【症例1】

- ・74歳、男性
- ・主訴:右上肢の運動時の倦怠感
- ・3ヶ月前より髭剃り時に右肩一上腕のだるさを自覚するようになった。
- ・上肢血圧: R; 108/60mmHg、L; 130/70mmHg
- ・治療:右鎖骨下動脈のPTA&stent留置を施行



【症例2】

- ・63歳、男性
- ・主訴:間欠性跛行
- ・3年前より間欠性跛行あり。高血圧で内科通院中に上肢血圧の左右差、頸部雑音を指摘された。
- ・上肢血圧: R; 160/90mmHg、L; 134/78mmHg
- ・治療:上肢に対しては薬物治療のみ



鎖骨下動脈狭窄・閉塞の治療

- ・禁煙
- ・運動療法
- ・薬物療法
- ・PTA
- ・PTA&stent
- バイパス手術

※年一回の左右の血圧測定、頸動脈の聴診は大切です

ホームページだより

光市医師会のホームページ（HP）を一新しました。トップページをコンパクトにまとめて使いやすくしました。それから、行事予定の項目を増やし、そこに医師会の行事予定を速報することにしました。また、医療機関関連リンクとネット関連リンクを整理して、使いやすくしました。他の医師会のホームページを見るととても立派なものばかりで、恥ずかしくなりますが、少しずつ改善していこうと思います。皆さんのご意見・ご指導をお待ちしております。今回は新聞のことをひとつ。HPのネット関連リンクには各メディアのリンクが張ってあります。小生は各大手新聞や地方紙、海外のメディアの表紙を毎日見て回っております。そのサーフィンに医師会のネットリンクを使用しています。テレビと新聞はあまり見ることはないです。気になる項目はメーリングリストに挙げて議論をします。すると関連情報が錯綜します。考えながら情報を処理することが出来るととても効率的だと思っています。皆さんもちょっと使ってみてください。



山口県光市 佃医院
佃 邦夫

連絡事項

受付		発送番号	通達文書名
月	日		
4	1	山医発1	平成17年度山口県医師会会費減免申請及び日本医師会会費減免申請について
		山医発5	郡市保険担当理事協議会開催について
		山医発6	心臓病患者家族のためのAED心肺蘇生法講習会の受講について
		山医発11	個人情報保護法施行に伴う広域予防接種予診票の取り扱いについて
		山口県医師会	使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正について
		山口県医師会	第2回山口県ケアマネジメント研究大会の開催について
		山医保発1	保険料納入告知書の送付について
		山医保発2	保険料減額免除申出について
		山医保発3	「医師国保組合のしおり」の送付について
4		日本医師会	個人情報保護法全面施行に向けた日本医師会の取り組みについて
	5	山医発17	「個人情報の保護に関する法律」の全面施行に伴う交通事故診療及び各地における医療協議会(三者協議会)の運営等に係る留意点について
		山医発16	経済産業省「医療経営人材育成事業」におけるアンケート調査について
7		やみ初15	郡市医師会事務連絡協議会の開催について
		山医発19	「よくわかる自衛隊災害派遣(医療支援)の送付について
		日医年税47	日本医師会年金における個人情報の取り扱いについて
		山口県防犯連合会	平成17年度 賛助会費の納入について
9		日医年税1	新入会員に対する日本医師会年金の普及推進について
		総研4	「会員の為の日医ITフェア」についての案内
12		山医発28	社会保険医療担当者保険指導医について
		山医発29	救急搬送体制における個人情報の保護について
		山医発34	第92回山口県医師会生涯研修セミナーの開催について
13		山口県医師会	地域における看護職員の確保方策と医師会の役割についての調査協力について
14		山口県医師会	市町村合併に伴う政府管掌保険被保険者証の記号変更及び交付について
		山口県医師会	平成17年度診療報酬の支払日について
		山口県医師会	点滴用キシロカイン10%の取り扱いについて
		山口県医師会	使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正について
		周23-1	健康危機管理対策連絡会議緊急時連絡名簿について
		医務117	「第15回 やまぐち看護のつとめ」のチラシ配布について
16		山医発42	医事紛争対策委員会名称の変更について
		山医発37	在宅におけるALS以外の治療患者、障害者に対するたんの吸引の取り扱いについて
		事務連絡	山口県救急医療情報システムの運用状況
18		産業医研修会事務局	産業医研修会について
19		山医発44	定例代議員会の議案等の送付について
		山医発46	第37回産業医学講習会の開催について
		山口県医師会	「入院時食事療養の新設に伴う実施上の留意事項について」等の一部改正について 「はり師、きゅう師及びあん摩・マッサージ・指圧師の施術に係る療養費の支給の留意事項等について」の一部改正について
21		山口県医師会	メドトロニック Insync8040に係る使用上の注意の改訂について ゲフィチニブ検討会における検討結果に基づく対応について
		山医発49	救急医療対策実施要綱の一部改正について
		日本医師会	糖尿病についての啓発リーフレットの送付について
25		山医五発5	傷病見舞金の送付について
		山口県医師会	使用薬剤の薬価(薬価基準)等の一部改正について
26		周児74	心身障害児療育相談会及び総合療育システム推進会議の開催について
		山医発51	日本医師会最高優功賞受賞候補者の推薦方依頼について
		山医発52	平成17年度バリアフリー化推進功労表彰候補の推薦について
		山医発63	「平成16年度山口県動物由来感染症予防体制整備事業報告書」の送付について
		山医発64	平成17年度エイズ検査(HIV抗体検査)の実施について
		山口県医師会	厚生労働省通知「『診療録等の保存を行う場所について』の一部改正について」の送付について 厚生労働省通知「民間事業者等が行う書面の保存等における情報通信の技術の利用に関する法律等について」の送付について
30		山口県緩和ケア研究会	第23回山口県緩和ケア研究会のご案内

専科



4月休日当番医報告

	内科系	外科系
4/ 3(日)	25	2
10(日)	16	3
17(日)	18	6
24(日)	18	6
29(金)	24	6
計	101	23

あ と が き

4月26日の光市立病院・光市立大和病院・光医師会員との合同症例検討会は大和病院の小会議室で行われました。30数名の会員が集まり、スライド、シャーカステンに食い入り、古き良き時代の医局を彷彿させるものでした。諸先生方の真摯に医療に取り組む姿に感動すら覚えました。他科の分野を垣間見るのも決して無駄ではありません。これからもこの症例検討会は続けられる事でしょう。多くの先生方のご参加を希望いたします。

発行所 光医師会
 TEL(0833) 72-2234
 発行日 平成17年 5月10日
 発行者 河村康明
 編集者 広報担当
 印刷所 光市光井一丁目15番20号
 中村印刷株式会社